

第24回 埼玉県新型感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年3月4日（木）18：00～19：45

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長（WEB参加）

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院 専門看護師（WEB参加）

讃井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事（WEB参加）

森尾 博之 危機管理防災部長

山崎 達也 福祉部長

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

萩原 由浩 教育局 副教育長（WEB参加）

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 緊急事態宣言の延長は賛成である。（川名委員、坂木委員）
- 飲食店や高齢者施設等の努力した結果が表れているのではないか。（岡部委員、川名委員）
- 疫学的な評価をすると、感染者数の増加は若い世代から高齢者へと広がっていった。減少についても、若い世代の後で高齢者という結果となった。このことを鑑みると、若い世代で増加が見られるのは高齢者の感染者が増加する前兆かもしれない。（川名委員）
- 変異株は全国的に増加しており、感染効率が高い恐れがあることから、しっかりとフォローするべき。（岡部委員、川名委員）
- ワクチン接種を円滑に行うためにも、新規陽性者数を減らす必要がある。（岡部委員、川名委員）

【県の対応】

- 委員の主な意見を3月5日開催の第44回新型コロナウイルス対策本部会議において報告を行った。

イ 3月8日以降の措置・緊急事態宣言解除要請の目安について

- リバウンド防止策としての検査スポット設置などのモニタリング検査は是非実施するべき。（川名委員）
- 積極的疫学調査は本当に大変だと思うが、感染拡大を防ぐ重要な意味を成している。引き続き、歯を食いしばって取り組んでいただきたい。（岡部委員）
- どれほど対策をしても、解除をすれば必ず感染者数は増加する。この二週間は、今後に備えた体制作りのための時間と考えるべき。（川名委員、坂木委員）
- 一日の陽性者数が70人前後であった11月上旬の状況であれば、比較的安定し、救急対応もできていた。12月の状況では現場の緊張感が高く、誰がコロナ陽性者か分からない状況で、院内感染のリスクを高めてしまう。

(竹田委員)

○ 学生に対しては、春休み中の学外の動きが感染を広げる可能性もあるため、自らがルールを考え、それを支えていく活動が必要ではないか。(坂木委員)

○ 春先は人事異動のタイミングであるため、慣れていた医療従事者が異動の影響を受ける心配がある。ここでしっかりと感染を抑制することで、重要なライフイベントである入学式を開催できない事態を避けて欲しい。

(岡部委員)

【県の対応】

- 国の基本的対処方針、県内の感染状況、委員の意見を踏まえ3月8日以降の緊急事態措置等について決定した。(3月5日開催第44回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。)

ウ 高齢者施設対策について

○ 埼玉県は、他の都道府県と比較しても先んじて対策ができている。e-MATや互助ネットワークなどはよい仕組みである。是非モデルとして進めて欲しい。(岡部委員、松田委員)

○ 対策の仕組みが多くあっても、現場まで届かなければ意味がないため、周知をしっかりとすべき。(坂木委員、松田委員)